

明治村 だより

冬号 Vol. 42

●目次

- 明治村の收藏品について2
- 明治村グラフィティPart 44
- 明治の家具 明治宮殿葡萄之間の家具6
- 冬の明治村—催し物のご案内6
- A La Meiji-mura7



- 5JH 51番地~67番地
 - ① 聖ザビエル天主堂
 - ② 金沢監獄正門
 - ③ 小那沙美鳥燈台
 - ④ 天童眼鏡橋
 - ⑤ 岡田川新大橋
 - ⑥ 大明寺聖パウロ教会堂
 - ⑦ 川崎銀行本店
 - ⑧ 皇居正門石橋飾電燈
 - ⑨ 内閣文庫
 - ⑩ 東京駅警備巡査派出所
 - ⑪ 前橋監獄雄雄居房
 - ⑫ 金沢監獄中央看守所 監房
 - ⑬ 宮津裁判所法廷
 - ⑭ 菊の世酒蔵
 - ⑮ 高田小照写真館
 - ⑯ 名鉄岩倉支所(岩倉ホール)
 - ⑰ 帝国ホテル中央玄関(ポーツマス条約調印テーブル)
- 4JH 34番地~50番地
 - ① 第四高等学校武術道場(無声堂)
 - ② 日本赤十字社中央病院東棟
 - ③ 歩兵第六聯隊兵舎
 - ④ 名古屋製成病院(戦前建て)
 - ⑤ シアトル日系福音教会
 - ⑥ ブラジル移民住宅
 - ⑦ ハワイ移民集会所
 - ⑧ 六郷川鉄橋
 - ⑨ 尾西鉄道蒸気機関車1号
 - ⑩ 蒸気機関車12号・9号・三等客車
 - ⑪ 鉄道新橋工場(機械館)リング紡績機(重要文化財) 菊池御紋章付平削盤(重要文化財)
 - ⑫ 工部省品川硝子製造所
 - ⑬ 宇治山田郵便局(重要文化財)
 - ⑭ 本郷喜之床
 - ⑮ 小泉八雲避暑の家
 - ⑯ 興服座(重要文化財)
 - ⑰ 半田東瀧
- 3JH 24番地~33番地
 - ① 京都市電
 - ② 北里研究所本館(医学館)
 - ③ 幸田露伴住宅「蝸牛庵」
 - ④ 西園寺公望別荘「坐論荘」
 - ⑤ 茶室「亦楽庵」
 - ⑥ 品川燈台(重要文化財)
 - ⑦ 品川島台附置倉庫(重要文化財)
 - ⑧ 長崎居留地二十五番館
 - ⑨ 神戸山手西洋人住居
 - ⑩ 宗教大学車寄
- 2JH 14番地~23番地
 - ① 千早赤阪小学校講堂
 - ② 第四高等学校物理化学教室
 - ③ 東山製薬所(重要文化財)
 - ④ 清水医院
 - ⑤ 東松家住宅(重要文化財)
 - ⑥ 京都中井酒造
 - ⑦ 安田銀行会津支店
 - ⑧ 札幌電話交換局(重要文化財)
 - ⑨ 蒸気自動車(鉄道記念物)
 - ⑩ 京都七條巡査派出所
- 1JH 1番地~13番地
 - ① 第八高等学校正門
 - ② 大井牛肉店
 - ③ 三重県尋常師範学校蔵持小学校
 - ④ 近衛局本部付属倉
 - ⑤ 赤坂離宮正門哨舎
 - ⑥ 聖ヨハネス教会堂(重要文化財)
 - ⑦ 学習院長官舎
 - ⑧ 西郷從道邸(重要文化財)
 - ⑨ 森錦外夏目漱石住宅
 - ⑩ 東京百官学校車寄
 - ⑪ 二重橋飾電燈
 - ⑫ 鉄道局新橋工場
 - ⑬ 明治天皇御遺徳太子御車(鉄道記念物)
 - ⑭ 三重県庁舎(重要文化財)

下記カレンダーの■が休村日です

12月か52月の開村時間と休村日のご案内

開村時間 9:30~16:00

2005年							2006年													
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31	22	23	24	25	26	27	28	26	27	28				
							29	30	31											

★毎週土曜日は、小・中学生の入村料が無料になります。

「明治村 だより」 第43号発行のお知らせ

発行時期 平成18年3月(予定)

申込方法 「明治村だより」第43号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙 「明治万国博覧会」ポスター(平成15年)

平成17年12月10日発行

「明治村だより」第42号(平成17年 冬)

発行 博物館明治村
〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
電話 (0568) 67-0314
ホームページ <http://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

おわび

「明治村だよりVol.41」8ページの図の表題に誤りがありました。おわびして訂正いたします。

誤: 芦川邸の → 正: 芝川邸の

明治村の収蔵品について

明治村の使命は「(前略) 日本の隆盛期であった明治時代の各種資料を収集管理して、広く一般に公開するとともに、明治の新しい精神に立脚した社会教育の振興により、国民大衆に歴史の指針を与え、その一般教養の充実を図ることに、社会文化の向上に寄与することを目的とする。」(財団法人明治村寄附行為)と記され、その目的を適えるべく、建造物の移築とともに歴史資料の収集が開始されました。開村前の昭和三十八年に明治村地鎮祭記念講演会(四月二十五日)や、テレビでも放映された地鎮祭記念座談会(五月一日)などにより明治村開村が広く周知されたことや、昭和四十年代前半の「明治ブーム」、これらが相俟って多くの市民の皆様等から歴史資料をご寄贈いただきました。今回は四十年間にわたる収集活動の中から、代表的な「群」としてまとまりをもった資料の一部をご紹介します。

家具資料

博物館明治村では開村前の昭和三十九年と昭和五十三年の二回にわたり払い下げを受けた明治宮殿や赤坂離宮で用いられた宮廷家具・鹿鳴館で使用された家具などあわせて約四百



三重県庁舎2階正庁



西郷従道邸1階食堂

点を所蔵しています。その一部は修復を行い、西郷従道邸や三重県庁舎などの室内再現空間や三重県庁舎一階の「明治の椅子」展示室で公開しています。

また昭和四十六年の西園寺公望別邸「坐漁荘」移築時に邸内で使用された家具をあわせてご寄贈いただきました。これらはこの住宅のために特別に誂え、自分で使用しやすい仕様となるよう西園寺が事細かに依頼したものとわれ、現在明治村では往時の家具配置に基づき展示しています。

また先号でもご紹介しました武田五一設計の芝川又右衛門邸で使用された家具、フランク・ロイド・ライトの弟子遠藤新設計の羽仁邸で使用された家具、最近では明治末年に東京都文京区に開業した遠藤医院の診察室・薬局・待合室の町医者者の家具一式などを収蔵しています。現在すべてが展示公開されているわけはありませんが、これらの家具資料を概観することにより、近代日本において室内空間が西洋化していく過程を見て取ることができます。

ホテル資料

ホテル資料は、明治四十一年に創立された(社)日本ホテル協会から協会設立七〇周年を記念して寄贈された、明治時代に開業した「日光金谷ホテル・万平ホテル・帝国ホテル・富士屋ホテル・都ホテル・奈良ホテル」の六ホテルで保存されていた百八十点の資料群です。

昭和五十八年三月から五月まで、「特別展示 明治のホテル展」として披露させていただきました。昭和六十年十月からは内部公開された帝国ホテル中央玄関一階に、平成八年八月まで展示していましたが、建物内部展示の変更により撤収し、残念ながら現在はほとんどが収蔵品となっています。資料の内容はフランク・ロイド・ライトデザインのピーコ

ック・チェアをはじめとする各ホテルの客室や宴会場などで使用された家具・食器・カトラリー、厨房で使用されたと思われる銀器洗い機などのほか、錦絵などの絵画資料なども含まれています。

象牙製や銀製のカトラリーにホテルのロゴマークを刻印したもののや、宿泊客の大半を占めた外国人を意識したデザインの食器類などを目的にしたりすると、当時欧米で流行した日本旅行を楽しむ人々の様子が髣髴とさせられます。

※寄贈された資料の詳細は「明治村ホテル史料館展示品アルバム」(社)日本ホテル協会発行)にまとめられています。



万平ホテルで使用されたカトラリー



日光金谷ホテルで使用されたバスタブ

明治時代の建築家資料

田辺淳吉資料

建築家・田辺淳吉の資料群で、友人知人から田辺に宛てられた百通余りの葉書や大学時代のノート、試作品として焼かせたタイル、自家用に考案した折り畳み製図板や裁縫台などを合わせて二百五十点余りを収蔵しています。なかでも後に早稲田大学建築学科教授となった佐藤功一や大蔵省臨時建築部に勤め内閣文庫や国会議事堂設計の指揮を執った大熊喜邦等の同級生との間でやりとりされた葉書からは心温まる交友関係を垣間見ることができます。



佐藤功一や大熊喜邦から送られた絵葉書

清水義八資料

明治村に移築保存されている三重県庁舎・三重県尋常師範学校の設計者、清水義八。その生涯については「辞職後の清水義八」(菅原洋一・明治村だより二十九号二〇〇二)に詳しく記されていますが、彼の残した



清水義八によって記録された文書類

た図面・仕様書などがまとまって明治村に残されています。清水の関わった前出の建物に加えて、山田監獄署・津警察署・桑名警察署などの公共建築、寺社建築など二百点を超す資料からは、棟梁らが日本古来の伝統的な技術に加えて西洋的な技術を受容してきた様子が見取れます。またこれらの資料目録は三重県史編さん室から「清水義八関係文書1」3(一九九〇)としてまとめられています。

その他

武田五一や岡田信一郎に関する資料もそれぞれ二十点余りを所蔵しています。武田の資料は大正四年に宮内省



武田五一 大礼服

より正五位に叙せられた際に誂えた「大礼服」や大学卒業時の「学位記」、岡田の資料には遺愛の「定規」など建築家らしいものが含まれています。

方南文庫

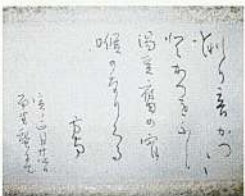
方南文庫は、墨蹟の研究者であり、また財団法人明治村理事であった田山方南氏より寄贈を受けた約七百点の、自筆および交友の方々の手書、および収集された古典の書などです。ご寄贈いただいた古典の書の中には江戸時代初めの茶人藤

村庸軒の晩年の書や寛水の三筆として名高い近衛信尹・松花堂昭乗の書など歴史的にも価値の高いものが多く、田山氏の書跡に対する鑑識眼の高さをうかがい知ることが出来ます。一方、交友諸氏との間で交わされた書簡には、堅苦しさのない友人の間ならではのウィットに富んだ文章にさらに挿絵の施されたものがあります。これらを目にすると、手書きで、ましてや筆で以って手紙を書くことが稀少となった現在、遠くに置き去りにしてしまった私たちの記憶を呼び覚ますとともに、見るものの心をホッと和ませてくれるものがあります。

方南文庫は受入時に目録を作成し、利用される方の便に供しています。



近衛信尹 三十首和歌二首



田山方南 湯豆腐の歌

成瀬正勝文庫

成瀬正勝文庫は「明治村だより十四号」(一九九八年十二月発行)に詳しく紹介されていますが、ここにかいつまんで紹介させていただきます。

旧蔵者の成瀬正勝氏は、大山市にある犬山城の旧城主で、開村当時の財団法人明治村の評議員であられました。専門は明治文学で、昭和十一年に東京帝国大学文学部国文学科卒業後、雅川湊のペンネームで評論活動を行う傍ら日本大学・東京大学などで、教鞭を執られ後進の指導にあたられました。昭和四十八年に逝去された後、ご遺族から成瀬氏が戦後収集された図書・雑誌あわせて約二万点を寄贈いただきました。

成瀬文庫は成瀬氏門下の助川徳徳先生のご尽力により、昭和五十四年に目録を刊行し、予約制となっていますが、多くの研究者の方々にご利用いただいています。

錦絵資料

錦絵資料は約千点を収蔵し、明治村の中でも大きな資料群の一つです。

錦絵は明治時代初期において、天皇の東幸、そして新たな「街」の形成により、「新しい時代」の到来を広く市民に告げるメッセージジャーの役割を果たしていました。その後明治二十年代から錦絵の終焉を迎える明治三十年代までは、憲法制定・国会開設など、近代国家として歩み始めた過程を映し出しています。錦絵は単に人々の生活の様子や、町の賑わいなどを映す風俗資料・絵画資料としてだけでなく多岐にわたる情報を私たちに伝えてくれる第一級の資料と言えます。



東京改良演芸会之図



東京名所之内 新橋汐留蒸気車鉄道局停車場之真図



「明治のくらし よろず体験」開設（文化庁芸術拠点形成事業）（平成15年3月）



ボランティアガイド導入（平成14年4月）



馬車開業式典（平成12年9月）



10番目。重要文化財に指定された宇治山田郵便局

「宇治山田郵便局」重要文化財指定（平成11年3月）

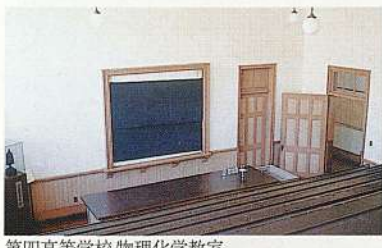


「リング精紡機」重要文化財指定（平成11年4月）

- 平成元年（1989） 7月 高田宮憲仁親王殿下、同久子妃殿下御来村。
- 平成2年（1990） 3月 開村25周年記念特別展「日本近代洋画の父 黒田清輝展」開催。
- 6月 二代目明治村村長に森繁久彌氏就任。
- 10月 開村25周年記念式典。
- 平成3年（1991） 6月 関野克昭長退任、村松貞次郎氏第三代明治村村長に就任。
- 平成4年（1992） 9月 1日より開村時間を30分繰り上げ9時30分とする。
- 平成5年（1993） 2月 開村以来の入場者が3500万人となる。
- 3月 京都中井酒造 移築公開。村内にて飲酒販売開始。
- 10月 「文明開化のデザイン―好奇心のいろとカタチ―」開催。フランク・ロイド・ライト氏の孫、建築家エリザベス・ライト・イングラムさん来村。
- 平成6年（1994） 9月 大明寺聖パウロ教会堂 移築公開。あわせて「明治のキリシタン―信仰のかたちと心―」開催。
- 平成7年（1995） 4月 「開村30周年記念特別展 方南文庫展」開催。
- 平成8年（1996） 3月 「お雇い外国人―明治をつくった恩人たち―」開催。
- 4月 明治村交會30周年記念特別展「明治村交會と人間国宝」開催。
- 9月 西郷従道邸・三重県庁舎・長崎居留地二十五番館・帝國ホテル中央玄関 室内再現。
- 10月 村内バス（ハイカラ号）導入。
- 12月 聖ヨハネ教会堂・学習院長官舎・日本赤十字中央病院病棟・高田小写真館 室内再現。
- 平成9年（1997） 3月 札幌電話交換局・安田銀行会津支店・京都市中井酒造・東松家住宅・清水医院 室内再現。
- 5月 東山梨郡役所・第四高等学校物理化学教室 内部公開。
- 8月 三重県庁舎旧秘書課室に「明治の三重と伝統産業―展示室開設 旧租税課室に「彩の間（鹿鳴館風舞踏室）」再現。村松貞次郎館長逝去。
- 10月 飯田喜四郎氏第四代明治村館長就任。
- 平成10年（1998） 11月 11日燈台記念日にちなみ品川燈台内部公開。（以降毎年）
- 平成11年（1999） 3月 「宇治山田郵便局」重要文化財指定を受ける。北入口を開設。
- 4月 「リング精紡機」重要文化財指定を受ける。聖ヨハネ教会堂修理工事竣工、創建時のスタンドグラスが復元される。
- 平成12年（2000） 9月 開村35周年記念特別展「大馬車展―馬車のすべて―」開催。村内にて乗合馬車の運行開始。
- 11月 この年から秋の呉服座公演「越中八尾おら踊り」開催。開村以来の入場者数が4000万人となる。
- 平成13年（2001） 1月 1月、2月、12月の毎週月曜日を休館とする。
- 4月 「菊花御紋章付平削盤」重要文化財指定を受ける。
- 平成14年（2002） 3月 「明治のりもの博覧会」開催。（11月まで）明治天皇・昭憲皇太后御料車、蒸気自動車内部を初公開。皇居外苑鉄柵や旧三菱2号館玄関石柱を使用し北口道路をリニューアル。
- 4月 ボランティアガイド導入。第26回を以って明治村剣道大会終了。
- 5月 百年前の結婚式開催。
- 10月 特別展「日本最古の蒸気自動車が出た」開催。プレミアムガイド（電気自動車を利用した予約制ガイド）開始。
- 平成15年（2003） 3月 「明治万国博覧会」開催。（11月まで）体験展示「明治のくらし よろず体験」開設。汐留火力発電所煙突基礎復元。工部省品川硝子製造所内に汐留パー開業。半田東湯に足浴オープン。明治村の建造物23棟が登録有形文化財に指定される。
- 平成16年（2004） 3月 三代目明治村村長に小沢昭一氏就任。「明治村トリエンナーレ 芸術芸術祭」開催。（11月まで）明治村の建造物29棟が登録有形文化財に指定される。毎週土曜日は小中学生の入村無料となる。特別展「明治の美神（ミニチュア） 昭憲皇太后」開催。10月 毎土曜日「明治村こどもがやきプラン」（文部科学省地域子ども教室推進事業）を開催。
- 平成17年（2005） 1月 芝川邸復元工事着手し、現在進行中。3月 明治村開村40周年記念式典。愛知万博開催記念「百年前*体験博」開催。（11月まで）

明治村ヒストリー

平成9年室内再現

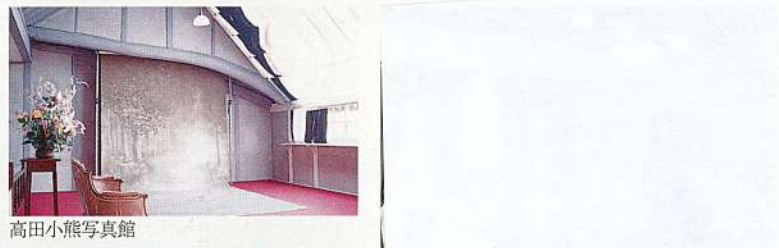


第四高等学校物理化学教室



東松家住宅

平成8年室内再現



高田小写真館



日本赤十字社中央病院病棟

平成8年室内再現



西郷従道邸



長崎居留地二十五番館

平成5年公開



呉服座修理工事竣工



聖ヨハネ教会堂の復元されたスタンドグラス

平成5年公開



京都中井酒造

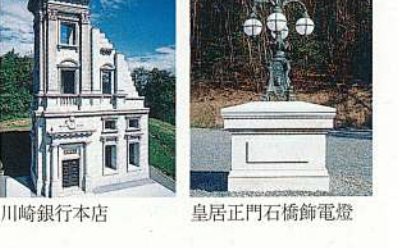


大明寺 聖パウロ教会堂

平成2年公開



内閣文庫



川崎銀行本店 皇居正門石橋飾電燈

平成6年公開



大明寺 聖パウロ教会堂

明治宮殿 葡萄^{ぶどう}之間の家具

明治村では数多くの明治、大正期の家具を所蔵していますが、その大半は明治宮殿、赤坂離宮などで使用されていたものです。今回は収蔵品の中から明治宮殿の葡萄^{ぶどう}の間で使用されていた家具（写真1）を紹介いたします。

明治元年の東京遷都後、皇居として使用されていた江戸城二の丸御殿が明治六年に炎上したために、明治十七年に着工、明治二十一年に完成したのが明治宮殿です。この宮殿は表宮殿と奥宮殿に分かれ、表宮殿は公式の儀式や行事の催される場、奥宮殿は私生活の場とされていました。落成当時の規模は一六、六九四㎡で、木造平屋建て。外観は屋根を入母屋造りとした和風、内部は和風を主としながら、漆塗りの格天井にシャンデリアが吊るされ、寄木床に椅子をおく和洋折衷を取り入れられたものでした。設計者は定かではありませんが、工事は代々京都御所の造営にあたった古い工匠の家柄である木子清敬が統括し、室内装飾は赤坂離宮（現迎賓館）の設計で有名な片山東熊が担当したと言われています。しかし、第二次世界大戦末期の昭和二十年に戦火で焼失したため、現在ではほとんどなじみのないものとなってしまいました。

葡萄^{ぶどう}の間は「明治工業史」によると、
 葡萄^{ぶどう}の間は「明治工業史」によると、
 構造 木造平屋建
 屋根 方形造瓦葺銅板葺獅子口
 内部 格天井格調色漆塗り格間素木板の板彩色草花の図を青く床寄木張周張付一之間藍鼠色二之間茶色織物巾木に木象眼装飾あり。建具出入口唐戸椽側界硝子戸框調色漆塗外に舞良戸を建つ。上部欄間硝子戸綴帳を懸く。暖爐前飾大理石造鏡付鏡縁に葡萄^{ぶどう}薄肉彫刻あり随所飾金具付

葡萄^{ぶどう}の間は桐の隣にあり、一之間、二之間よりなり、主として皇族の御控所に充てられ、また東宮が儀式の場合正殿に出御の時御休所に使用される。室内、装飾並に御調度すべて葡萄^{ぶどう}の模様である。画は幸野株嶺、久保田米庵^{べいあん}両画伯が腕を振るったもの。（傍点は編集者）

と、内部写真（写真2）と共に紹介されています。葡萄^{ぶどう}の間は皇后の謁見所である桐の間や儀式を執り行う正殿の控えの間として使用されており、他の部屋と同じく漆塗りの格天井に、絨毯が敷かれた和洋折衷の室内であったことが読みとれます。また、マントルピース上の鏡縁だけでなく、家具その他装飾に葡萄^{ぶどう}が使われていたことが分かります。

現在明治村で所蔵している葡萄^{ぶどう}の間の家具には、この葡萄^{ぶどう}の装飾が施されています。葡萄^{ぶどう}は実の数が多くことから子孫繁栄、豊饒の意味があり、古くから葡萄^{ぶどう}唐草等の文様として使われてきました。このキャスター付の肘掛椅子は、背もたれから足下の木部にかけて葡萄^{ぶどう}の模様が彫られています（写真3）。それぞれの部位にあわせて彫られた葡萄^{ぶどう}は、控えめながらもこの部屋にふさわしいデザインとなっています。また張り地には天皇家の紋「菊」を元にした、饅頭菊が織り込まれ、控えの間ではありますが、皇族の方々が利用した部屋として、そこで使用するにふさわしい家具といえます。



写真1: 肘掛椅子



写真2: 葡萄の間の写真（皇居の面影より）



写真3: 葡萄の装飾

火災を防ぐ

レンガ通りの入口にある石造りの建物、札幌電話交換局（〒自二番地 重要文化財）には火災を防ぐ工夫がなされています。

札幌電話交換局は明治三十一年に竣工し、同三十三年に営業を開始しました。その三年後の明治三十六年に郵便電信局に併合され、札幌郵便局電話課と名称が変更されました。

札幌の町は、北海道開拓の拠点として明治二年から二年余りを費やして造られました。札幌地区は、草葺き家屋が多く開墾の火入れや暖房用ストーブ等の失火による火災が多かったため、開拓使は、草葺き家屋を焼き払って建て直すなどの対策を講じました。それでも火事は多く、明治十二年に開拓のシンボル開拓使庁舎を焼失しました。通信省関係の建物も、札幌郵便電信局（後、改制等で度々名称が変更）等は、明治二十五年、三十二年、四十年と火災にみまわれています。札幌電話交換局を耐火性のある札幌軟石を積み上げ、厚い壁石（写真1）にしたのは、度重なる火災が背景にあったと考えられます。



写真1

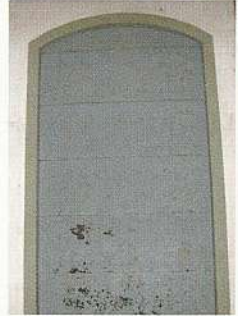


写真2

さらに、注目すべきは、一階裏側入口に二ヶ所、一階窓に三ヶ所、二階窓に五ヶ所、計九ヶ所に設置されていた防火扉（写真2）です。この扉は明治四十年に焼失した札幌郵便局を同四十三年に大増築する際、電話交換局舎部分に取り付けられたものでした。わが国の防火扉として初期のもので、厚さ五ミリ、鉄製の上げ下げ式で、東京芝区の山本重三の特許専売品です。壁に設置されたハンドルの回すとワイヤーと歯車によって扉が上下する仕組みになっており、建物内部の火災拡大を防ぐために設置したものと考えられます。鉄が高価な当時、最新の鉄製防火扉を取り付けている点からも火災対策に重点を置いていたことが窺えます。火災が多かった札幌の町：その火災から大切な交換機を守るため工夫を見ることができます。

現在、札幌電話交換局では、交換機や電話機の数々とその変遷を一覧になれます。電話の貴重な時代であった明治時代を思い浮かべ、その入口をくぐってみて下さい。

隠れた工夫

老舗の油問屋から明治二十年代後半に金融業へ転業した豪商「東松家住宅」(〒自八番地重要文化財)がレンガ通りの中ほどにあります。東松家の三階には、二階と三階を増築した明治二十四年に、京都の茶房を移築したと伝えられる部屋があります(註)。この部屋は現代のビルでおよそ四階の高さに位置し、ご家族(大正十年生)の話によると、遠く伊吹山まで望め、雪の日や天気の日など、隠居や家長が近所の友人を集めて、酒・茶などのもてなしをしたそうです。この部屋には「洞庫水屋」があります。一般的に茶室の隣には、点前の準備や片付けをする「水屋」を設けます。洞庫水屋は、茶を点てる畳(点前畳)の壁面に取りつけた押し入れ型の棚に、流しを付けたもので(写真1)、もともとは老人が座ったまま水屋の作法もできるようにと考案されたといわれています。

お茶を点てるには水が欠かせませんが、東松家の洞庫水屋は水道のない時代でも、三階に居ながら水を汲むことができるように工夫されていました。外見は一般的な洞庫水屋と変わりませんが、床板の半面(約五十センチ四方)が外せるようになっていきます。板を上げると滑車があり、さらに下を覗くと二階廊下の天井も取れることが分かります(写真2)。このちょうど真下にあたる二階廊下の床板も同様を外れ、天井には水を汲み上げる時に使った器具の一部と思われる金具が残っています。洞庫水屋の真下から滑車を使い、床や天井の板を外した剣貫きを通して三階まで水を上げるとい方法でした。この部屋は土間から三階まで続く吹き抜けに面しており、下の土間から見上げると洞庫水屋が張り出しています(写真3)。東松家の井戸は土間にあったので、長い距離を移動しなくても、水を洞庫水屋の真下まで運ぶことができました。

しかし、二階廊下の通行を妨げるため、板や引き上げるロープをその度に着脱する必要があります。利便性より、珍しい方法で茶を楽しむとした工夫だったのかもしれませんが。東松家では毎日建物ガイドを行っています。皆さんも洞庫水屋の隠れた工夫をご覧ください。(註)水野時二「川岸の油商人―東松家を中心に」『行業と文化』一九九一年古屋鉄道株式会社



写真1: 室内の様子



写真2: 洞庫水屋の床板を外して下(二階天井)を見た様子



写真3: 土間から見上げた洞庫水屋 ★は床を外した所

WINTER

冬の明治村

浪漫チック 明治村

平成17年12月17日(土)～平成18年2月26日(日)

HOT

ホットギャラリー

東山梨郡役所2階

映画「明治はる あき」をテーマにした前田守一氏の版画をお楽しみいただけるギャラリーです。

★クリスマスイベント★

クリスマスデコレーション <聖ザビエル天主堂、聖ヨハネ教会堂ほか>
村内の歴史ある教会堂、洋館がクリスマスの装いに包まれます。

ハンドベルコンサート <聖ザビエル天主堂>
12/18(日) 13:00～、14:00～

クリスマスミサ <聖ザビエル天主堂> 12/23(祝) 11:00～

クリスマス演奏会 <聖ザビエル天主堂、帝国ホテル中央玄関ほか>
12/24(土) 11:00～

教会クリスマスコンサート <聖ザビエル天主堂>
12/25(日) 13:30～、15:00～

●初春イベント●

正月飾り 1/1(日)～1/9(月) <正門・東松家住宅・京都中井酒造ほか>
村内の日本家屋に、伝統的な正月飾りを施します。

新春鏡割り 1/1(日) 11:00～ <呉服座前>
(提供:東洋自慢酒造株式会社)

祝餅つき 1/2(月) 12:00～・14:00～ <呉服座前>

祝太鼓 1/3(火) 12:00～・14:00～ <呉服座前>

日本のあそび体験 1/1(日)～1/3(火) 10:00～15:00 <聖ヨハネ教会堂>

バレンタイン・コンサート 2/11(土)・12(日)・18(土)・19(日) 13:00～・14:30～ <聖ザビエル天主堂>

